

JA西三河きゅうり部会生産者ほか(愛知県西尾市)

実証面積：11.4ha



実証課題名 JA西三河における生産から流通・販売のデータ駆動一貫体系の実証

構成員 愛知県、下村堅二、JAあいち経済連、JA西三河、PwCあらた有限責任監査法人、東海ローディング(株)、(株)エヌアイシー、IT工房Z(株)

背景・課題 JA西三河きゅうり部会では10年で単収を約30%向上している。しかし、キュウリの販売において品種や味・糖度など特色を出しづらく、差別化が難しく、日による生産量の増減が大きい品目である。また、物流においては、青果物の産地基盤の縮小に伴い、継続輸送を行うためには非効率な輸送が課題となっている。



きゅうり養液栽培ハウス

本実証プロジェクトにける想い

JA西三河きゅうり部会は部会全体の経営規模、収益等をあげるための方策に取り組んでいます。その一つとして流通・販売に取り組み、産地全体で発展するモデルの構築を目指します。

- 目標**
- 出荷情報の活用による積載率の向上 (5% 向上を目標)
 - レギュラー販売と袋詰め販売の収益差 (5% 向上を目標)
 - 袋詰め機導入による農業所得 3% 向上

実証する技術体系の概要

要素技術 ①環境データの収集 ②袋詰め機の高度化 ③出荷予想モデルの構築

時期	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
「見られる」ポイント		①									①	
		②									②	

①きゅうり環境データ等の収集

ハウス → インターネット → あぐりログサーバ

あぐりログBOX
 センサ
 湿度
 温度
 CO2濃度
 日射量など
 カメラ

あぐりログ

JA西三河きゅうり部会・全圃にモニタリングシステム(あぐりログ)を導入・データ共有されている
 ⇒蓄積されたデータを出荷予測に活用

②袋詰め機の高度化

包装機を導入し、産地で商品化を可能に

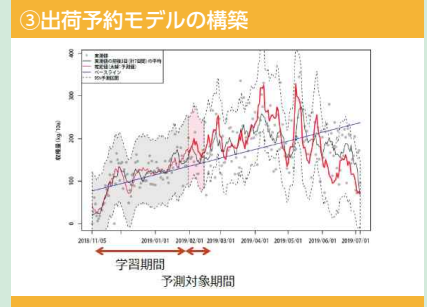
生産者向けに袋詰め機を導入し、産地で商品化を可能にする

消費先につながるQRコード

生産者向けに袋詰め機を導入し、産地で商品化を可能にする

生産者向けに袋詰め機を導入し、産地で商品化を可能にする

生産者向けに袋詰め機を導入し、産地で商品化を可能にする



問い合わせ先

- ▶ 実証代表
- ▶ 視察等の受入について

愛知県農業総合試験場普及戦略部技術推進室
 電話：0561-62-0085 e-mail：nososi@pref.aichi.lg.jp

西三河農業協同組合 営農部営農企画課
 電話：0563-56-5274 e-mail：einoukikaku@ja-nishimikawa.com